

# 見つけよう防災の種

先月号の冒頭で「**防災を勘違いしている人が多い様に感じる**」という言葉に、何をどのように勘違いしているのか教えて欲しいとの問合せがありました。

お答えします。阪神淡路大震災で防災がクローズアップされ、東日本大震災で防災がひとつのブームとな



り、防災活動をすることで自分が正義の味方になった気分が酔いしれる人が多くなったということです。前回より厳しい言い方だと思われるかも知れません。でも考えてみてください。「**あなたは何のために、**

**誰のために防災活動や災害への備えをするのか**」を定義していますか？ここが曖昧だと防災を勘違いしてしまうこととなります。典型的なもので「**自分たちのまちは自分たちで守ろう**」というスローガン。「自分」は判りますよね。では「**たち**」とは誰のこと？この曖昧さが更なる落とし穴をつくるのです。自分ではできないけれど「**たち**」の人達が守ってくれる。すると自分は備えを怠るようになるのです。

逆に「**他人を守るために防災活動をする**

」それも「**何処の誰か知らない人を守るために**」。

判りやすく言い換えれば、心臓が停止～放置すれば死に至る。この悲劇を減らす目的で「命を守るため心肺蘇生法を学び、教えることのできる能力を取得、そして他の人に心肺蘇生法を教える」素晴らしい活動です。でも教える側のあなたの命は誰が守ってくれるの？教えた人が守ってくれますか？教えた人は身近な人ですか？「**自分の命は自分で守る**」この「**自助**」という言葉は成り立つのでしょうか？そう！心停止をすると自分では何もできません。気づきましょう！自分の命を守るためには、知らない人に心肺蘇生法を教える前に身近な人に教えることが重要です。

ここでよく聞く発言があります。「**いやあ～家族は私が心肺蘇生法（防災）と言ってもあまり聞こうとしてくれない。だから聞いてくれる人に心肺蘇生法（防災）を伝えています！**」この瞬間、私には次のような言葉が聞こえます。「**おいおい、自分の家族すら聞いてくれないのに他人が聞くのか？他人は聞いているふりをしているだけじゃないのか？**」と少々意地悪く考えてしまう。

「**心肺蘇生法を覚えただけで、他人の命を守るようになった**」これも防災活動の勘違いのひとつです。心肺蘇生法を啓発することで、自分や自分の大切な人の命を守ることに繋がるという、**他者への感謝の欠乏**が勘違いを引き起こさせるのです。ここが正義の味方になった気分が酔いしれる人の典型例です。大切なことは、お互いに自分の命を守るために他者を守るチー

ムを創る意識が重要です。ここには例外はありません。一般に言われている「**要援護者になり得る人**」も守ってもらうという一方通行ではなく。私も守る側になるのだという「**お互い様の意識をしっかりと持つこと**」が大切です。ここでも要援護者になり得る人から、次のような言葉を耳にすることが多い「**私にはできない**」という逃げの言葉です。言い換えれば「**自分の命は自分で守ることができないから他人にまかせたい**」。ここで強く言いたいことは「**生き残る努力をしない人の命は絶対に守ることはできない**」ということです。やはり要援護者になり得る人も「**自分のできる範囲で生きる努力をすること**」は絶対に必要な意識です。

この話は、イソップ童話「**アリとキリギリス**」で言われていることです。夏の間、アリは冬の食料を蓄えるために働き続け、キリギリスはバイオリンを弾き、楽しく過ごす。やがて冬が来て、キリギリスは食べ物に困り、アリに乞い、食べ物を分けてもらおうとするが、アリは「**夏には歌っていたのだから、冬は踊ったらどうだい**」と食べ物を分けることを拒否し、キリギリスは飢え死んでしまう。一方で、アリが食べ物を分けてあげるとい



う改変がありキリギリスが飢え死ぬのは残酷だと、アリがキリギリスに食べ物を分け与え、それを機にキリギリスは心を入れ替えて働くようになるという展開に改変されたものが現代の主流です。これが問題で「**備えなくても誰かが分け与えてくれる**」ということです。災害を想定し、頑張

って備えていた人の備蓄品を、備えを怠っていた人が「**災害**」という名のもとに他人の大切な備蓄品を当初から当てにしているということです。

何が問題かという、キリギリス自体が過去の教訓を活かさず、災害が今に始まったかの如く、次の年から備えるという話です。これは今の日本の防災と一緒です。全国で大きな災害が続いています。自分の地域は大丈夫関係ないと思っていた人がキリギリス。ひょっとしたら次は自分の地域かもと思っていた人がアリです。

しかし、改変された新しい物語ではアリも同罪！アリも「**誰のために何のためにどの程度備えていたのか**」が見えなくなっています。食べ物を分け与えるボランティア的な感覚で、なおかつ「**来年からは備えなさいよ**」とキリギリスを諭す上から目線の誤った防災感覚です。

「**他人を守るために防災活動をする**」これでは、継続して次の世代に「**備えのバトン**」を渡すことは絶対にできません。防災とは、**自分と自分の大切な人を守る為に活動するという定義**を持ち続け、その為にチームを作り、大切な人を増やす！その為には「**挨拶**」から！

さて、あなたにとって大切な人とは誰ですか？

